

日本劇作家大会2014 豊岡大会  
コウノトリ新人戯曲賞 候補作品

『なぜ、「わたしを売る」ことで、  
あなたは離れていくのか』

作 田口アヤコ

女	女	女	女	女	登場人物
4	3	2	1	1、	
..	..	..	..	2、	
30	30	20	20	3、	
代	代	代	代	4	
後	前	後	前		
半	半	半	半		
の	の	の	の		
女	女	女	女		

へ0

（薄暗いなかから、夜が明けて行くような、暮れて行く、の逆回しのような、ゆっくりとした、あたたかい光、の、おとずれ。そしてまた徐々に暗くなり、部分的に、そして朝が来て、夜が来て、海に日がまた、山から日がのぼる、川面に西日が写る、その光の移行の途中に、沈はつきりとした声が聴こえ始める。そして、女たち。）

へ1

あたしを、  
買ってもらわないと。

売れ残るまえに、

値段がまだついているうちに、

売れるうちに、

わたしが買ってもらいたいとおもっているうちに、

決めるということ。

わたしは、

わたしの性欲をもてあましている、

へ2

あのね、  
にんげんって、  
いまいる自分、いまある？自分から、  
変わるのがいやなんだって、  
ていうか、  
人間っていうか、生物、生き物って、  
そうなんだって、  
変わる、っていうのが、  
それはさあ、  
なんかじぶんがこうなりたい、とか、  
いい暮らししたい、とか、  
なんかキレイになりたい、とか、  
もつといい自分になりたいとかそういう、

上に？上っていうか、  
よくなりたいたい、っておもっても、  
いやなんだって、  
脳が、拒否するんだって、  
変わるのがこわいとかそういうことじゃなくって、  
いやなんだって、  
ものすごくいやなんだって、  
でもさあ、よくなりたいたい、っていうか、  
変わりたい、でしょ、  
だからね、  
わたし、変わるの。

へ3へ

日が暮れていって、どこかへ向かって  
1年たったら、キレイさっぱり忘れる  
きれいなもの

生きていることと死んでしまっていること

わたしが大事だとおもっていたこと

あなたと、わかりあえなかったこと

わたしのなかから、なにかがうしなわれる

あなたにあげたもの、  
それはコンドームにいれられて捨てられる、

わたしは、  
わたしがおもっていないなかった場所にたどり着く

夜、

あなたがわたしのからだをさわって、

言ったこと、

わたしはここで産まれて、  
どこで死ぬんだろう？

へ4  
へ

わたしの名前は、  
かすみであり、  
きょうこであり、  
ゆかりであり、  
かなであり、  
ようこであり、  
みどりであり、  
まりこであり、  
かすみ、  
きょうこ、  
ゆかり、  
かな、  
ようこ、  
みどり、  
まりこ、

かすみちゃん、

きょうこちゃん、

ゆかりちゃん、

さて、

へ5  
へ

わたしたちは、18歳まで、このまちで暮らしました

高校がいくつかあります。

ここは、とよおか、という市ですが、  
わたしが産まれたところは、とよおか、ではない、  
あ、

いまは豊岡市、なんですけど、  
何年か前に、合併して市の一部となった地域です。

豊岡駅まで、電車で通いました

そう、家まで歩くのとあわせて、40分くらい？

朝と、夕方、  
川が、

ここはもう、すぐ、海なので、  
川は、なみなみと水をたたえていて、

流れているのか、いないのか、  
よく、川から水があふれるのです  
道路が閉鎖になります。

川の、よこを、朝と、夕方、  
くりかえして、  
ここは山もあるし、海もあります  
ここをでることを考えていたし、考えていなかったときもあるし、  
ただ、毎日が、朝と、夕方、

そして、わたしはこのまちを出ました。

わたしたちはこのまちを出ました。

〈6〉

女 4

もどりたい  
ということばにしてみると、  
もどりたい、もどりたい

じぶんが35を過ぎたっていうのが信じられない。  
ひとりで、暮らしていて、  
友達とか、もう3人子どもがいる子とかもいて、  
いままで、あたしなにやってきたんだろう？

仕事。

転々として来たけど、おかね、そうね、おかねのためだな。  
朝、なにもかんがえないで起きる

電車に詰め込まれて、  
パソコン立ち上げて、  
残業があんまりないっていうのは、めぐまれているのかも。

でもべつになにか予定があるわけじゃない。

なんか、ものすごく若くみられるけど、  
あー、あたし、子どもを産んだら、「高齢出産」なんだなーって。

彼氏、ほしいな、っていうか、

結婚、したいのかな、あたし、

なんで20代で結婚できなかったんだろ？

なんであのとき結婚しなかったんだろ？

て、いうか、

そうだよね、なんか、やんわりと、  
振られたんだよね  
なんか、「ごめん」って、  
そういうばいわれたよね。  
わすれてる。わすれてた。わすれる。わすれる、わすれる、忘れ  
る。

まだ、簡単に相手がみつかる。

〈7〉

わたしはかしこい。  
ので、

あなたがのぞむ、  
馬鹿で可愛いおんなを演じています。  
きらきらしたカワイイ声で電話に出て、  
料理をつくって、  
洗濯、  
掃除、  
靴磨き、  
な—んて、

〈8〉

わたしたちは、  
このまちを出たかった、のかもしれない、  
このまちにいたかった、のかもしれない、  
豊岡には大学がない、  
おとうさんもおかあさんも、  
「かすみの好きなようにしなさい。」

テストは怖かった、  
電車に乗って、東京に出た  
高いビルがたくさんあって、  
くらくらした、

大学はたぶん楽しくって、  
でも、「こんなもんかな、」っておもった、  
わたしは、  
わたし自身に、  
「こんなもんかな、」って、

そして、安心した。

〈9〉

女3

わたしは。  
大学をでてすぐ、このまちに戻ってきました  
たぶんとてもラッキーなことに、  
仕事をみつけれられたので。  
大学で福祉系の勉強をしたので、  
それが活かせる仕事をみつけれられたのが、  
すごいよかった。  
戻ってくるひと、そうですね、半分くらいかな。  
わたしは3年前に結婚して、子どもが1歳です。

〈10〉

女1

あたし、大学に行けたっていうのは、  
すごいありがたいとおもってて。  
あたしとか、わりと要領だけで渡ってきたタイプだからなー、と  
か。  
子どものころはすごい優等生で、  
でも、だんだん、  
じぶんのやりたいことと、  
ほかのひとからほめられること？みたいなのがずれてって、  
ほめられる、  
なんか、  
記念受験みたいにして受けた大学に受かって、  
ていうか、女子大みたいなのぜんぜん行きたくなくなっただけで、  
父親とかおばあちゃんとかすごい喜んで、  
なんかそういうの、すごい、  
ほめられたかったし、  
友達とか、  
なんかそれこそ産まれた町から離れる？みたいななの、  
すごいいやだったけど、  
怖かったし。  
でもなんか、あたしこわいもの知らずなところもあって、たぶん、  
なんか、「生まれ直した」みたいなかんじもある。  
ほんとに、もういちど、親から切り離された感じ。  
それで、一人暮らしとか、  
あ、でも、楽しかったけど、さみしかった。さみしかった。  
それで、彼氏と、  
4年間、ほんとになんであんなに束縛したり嫉妬したりしたんだ



ろう、みたいなの、  
でも就職したらすぐにいきなりできちゃって、  
妊娠、っていう  
あれ、なんでだったんだろう。  
もうなんかそれですーと醒めて、  
なんかいまになっただら、  
あんなに好きだったのになーとかおもうけど、  
なんか  
それから幻想っていうか妄想っていうか空想っていうかがさめた  
みたいなの、  
おとこのひとに対して、っていうか、  
じぶんに対して、っていうか、  
なんかたぶんさみしくって、  
お酒とかそれまでぜんぜんのまなかったのに、  
なんか、なんだろ、何人とやっただらろう？  
ほかのひとにばれなければ、  
楽しんでいいんじゃない、みたいなの。  
罪悪感とか貞操とかなんかそういうことば、  
あー、あかちゃんってこんなにかんたんに切り離されちゃうんだ  
な、  
とかおもうと  
なんかあのひととも、  
こんなにかんたんに切り離されちゃうんだな、とか、  
きのう、でも、お金もらったのはびっくりした。  
うわー、わたし、売ってるんじゃない、って、  
ほんとに買うおとこのひとがいるんだなー、って、  
なんか、すつと3万円でてきたな。  
わたし、3万円なんだな。  
笑える。

へ11へ

女4

妊娠してるかどうかとか、  
生理が遅れている、ということについて、  
べつに誰にもなにも言う必要はなくなっただけ、  
単純に、わたしが、どうすればよいか決めればいいのかなーって  
ただ単に、生理が遅れているだけで。

あれ？こないな、っておもって、  
三日くらい経って、  
検査薬、したほうがいいかなーって、  
妊娠検査薬って生理予定日から1週間くらい経たないと結果がで

ないから、  
1週間待って、  
陰性とかで。  
2日くらい経つと、生理が来る。  
正直、ほっとするし、  
がっかりする。

妊娠検査薬って、  
2本3本ってセットになってるんだけど、  
あたしあまりに毎月つかうから、  
「コンビニで売ってればいいのに」とおもったりして、  
べつにあたしは危険なことをしてるわけじゃなくって、  
ただ、そこにおとこのひとがいて、  
愛があるとかないとかそういうことをしてるだけ、  
それで、生理が遅れているだけ。

誰のこどもか、とか、  
関係なかった。

へ  
1  
2  
へ

女  
3

わたしの記憶、っていうか、  
なんかほんとに、ぜんぜん忘れてた  
なにかいま幸せだし、  
毎日、

なんかそれこそ、  
「子づくり」みたいなことをずっと考えてて、  
いやらしいかんじとか、なんかドキドキすることとか、  
だんなのことは好きだし、  
たまにちよっとくっついたりとすると、  
どきどき、ドキドキはするか、  
でもなんか、子どものこととか考えてると、  
そのほうが充実感あるっていうか、  
じぶんとかなんかどうでもいいな、っておもう  
なんかもうものすごいよろこび。みたいなのが。  
なんていうか、おかねの使い方とかも、  
じぶんのものを買うこととか、  
なんか考えることすらしない。  
あ、シャンプー買わないとな、とか、そんなかんじ。  
テレビで、

お金がなくなっ、っていうか、  
お給料が安くて、っていうので、  
水商売とか風俗とかをしています、  
みたいな女の子、

いまの時代でもそういうのあるんだなーって、  
東京？  
なんかここにいと、  
豊岡にいと、  
そんなことぜんぜん、  
あーそうか、そういうの、まだあるんだなーって、  
それこそ、テレビの中の世界。  
でもなんか、「遠いな」っておもうのと同時に、  
なんかいっしょに、同時並行みたいなかんじで、  
あたまのなかに、  
手とか口とかあれとかの感じが思い出して、  
なんかもうたぶん3ヶ月くらいしか続かなかった  
というか、あれ、  
あたし、つきあってたんじゃないんだろな。  
服を脱がせないひとで、  
あたしの、下着とかでもものすごい興奮してて、  
すーごい写真とか撮ってて、  
何時間も。  
あれも、あたしなんだろな。  
写真。  
何年前なんだろな？ 大学生。  
ものすごいほしくて、  
なんか、なにもかもめちやくちやになったな。  
ゆめみたい。  
欲しい、っていうか、  
あのととき、  
わたし、  
買ってもらいたかったんだな。  
わたし、じぶんを、売ってたんだ、な。

へ13

女1、3、4

夜中に目がさめてしまって、  
なにが起こったわけでもないのに、  
いきなり不安になって、  
まだ3時半で、朝にはならなくって、  
夜中の街に出て、  
コンビニに行って、  
水とビールを買って、  
歩きながらビールを飲んで、  
これから、とかでもなく、  
あした、とかでもなく、

そういえば、最近、だれにも電話をしていない。  
電話も、  
かかってこない。

(遠くで公衆電話のベル音)

へ14

女2

おとこは言った、  
その男は言った。

わたしは考えすぎる

へ15

女2

11月があたしの誕生日で、  
ちようどその週の日曜日が空いていて、  
結婚式をします。  
あと、5ヶ月。

9年つきあってるし、いいよね、っていうか、  
迷った、っていうか、  
もつといいひといるんじゃないのーっていう欲でたときもあるけど、  
わたしも、まあ、このくらいかな、って。

彼は転校してきた子で、  
なんか、  
うわー、都会の子がきたなー、って、  
すごいわくわくしたのをおぼえてる。  
それでも、中学校からいっしょ、とか、  
すごいロマンチックかもとおもうし、  
わらっちゃう。

そう、その日、  
マンガみたいに、  
彼の制服だけちがくて。

晴れてて、暑くて。

小学校のときから好きだった子とかいたけど、  
なんか、一瞬、ゼーんぶ飛んで。

地元だから、  
ともだちとかみんな来てくれるし、  
すごいうれしい。

あたしは一人っ子で、  
彼のいもうとが、  
「おねえちゃんできてうれしい」って言うのが、  
すごいうれしい。

それで、家から、お嫁にいくんだな。

晴れたらいいな。

白い、  
白無垢、

あたしは、無垢なんだろうか。

過去。

〈16〉

女4

ふるえてるよ。

くすり、のみすぎなんだよ。

おさけとくすり、いっしょにのんじゃだめだよ。

脳とか、神経とか、侵されてるんだよ？

って、いわれて。

わたしもなんかもうほんとに考えなおそう、っておもって、  
いろんなこと、

治療ですけど、  
早めにステップアップすることをおすすめします。

人工授精とか、  
片方の卵管が詰まっている可能性があるから、  
二月に一回ってことですね。

まだ、妊娠できるとおもいますよ。

まだ、  
まだ？

だいじょうぶだよ

あたしの友達も、  
40過ぎてからこども産んだよ！

とか、  
相手もいないのに？あたし？

結婚相談所に行こうか迷って、  
なんかほんと、合コンとかそういうのはもう声かからないし、  
サイト、1ヶ月3000円くらいの、  
条件みて、気に入ったひとにメッセージおくるーみたいなの、  
20人くらいのおひとと会って、  
お酒のんだりお茶したりドライブしたり、  
お酒のんだりお茶したりドライブしたり、  
なんなんだろうあれ、  
服えらんだり化粧に気をつかったり、  
若くみられたいな、とか、

あたし、もう、おわってるんじゃない？とか、

信じるっていうこと

過去とかじゃなくって、  
いま、

生理がなくて。

っていうか、

このひとでいいんだな、っておもって。

というか、

彼はあたしの鏡になってて、

かすみはかすみでいいんだよ、

おれはかすみがいいんだよ、

って言うてる

ひとの評価でじぶんの行動をきめるとか、

ばかばかしいって本音おもってたけど、

ちがう、ちがうって言うこと、

わたしがわたしのことをみとめるから、

かれはわたしのことをみとめる、

それで、わたしもかれのことがほんとーにみえるようになった。

みえる、っていうのは、

光なんだけど、

ひかりに照らされていけないものは、

目で、感じる事ができないから、

なんか、わたし、いま、

みえるようになった。

(照明、ゆっくりりと、強い光)

へ17

(音楽)

へ18

あたしは、生き続ける。

何度でも。

ぼろぼろになっても。

老いて、みにくくなっても。

老いて、やすらかな顔でも。

うつくしくなくても。

だれも、わたしのことをおもいださなくても。

わたしが、だれのこともおもいださなくても。

忘れても。

おもいだしても。

あのひと、

あのひと、

かすみちゃん、

きょうこちゃん、

ゆかりちゃん、

さて、

わたしは。

たくさんのおとこたち、

たくさんのわたし、わたしたち、

わたしの名前は

かすみでありきょうこでありゆかりでありかなであり

ようこでありみどりでありまりこであり、

売っています、

売っています、

買って下さい、

わたしは、わたしを、買う、

あなたがわたしを買ったことを忘れても。

わたしは、わたし自身を支配する、そして解放する、

あなたが、わたしを買い、所有し、支配し、

そのあとわたしを忘れたことも、

わたしは宣言する

わたしはわたしを売り

そして、

わたしはわたしを買う。

わたしのなかの実り。

それを、

いつか、

もう会うことのない

あなたにも



分け与えて。

わたしはここで産まれて、  
どこで死ぬんだろう？

おとうさん、  
おかあさん、  
かすみちゃん、  
きょうこちゃん、  
ゆかりちゃん、  
わたし、の分身たち、

祝福

(音楽)

e  
n  
d

※作品の著作権は作者に帰属します。無断での上演・掲載・配布は固くお断り申し上げます